

## 「高校であるからこそ」の導入のねらいと今後の具体的方向性について

### 導入前の問題点

- 町に1つしかない高校（道立）の役割と地域の考え方の隔たり（人口減少と高校存続の問題）
- 学校運営に係る様々な前例踏襲・マンネリ化
- 学校経営に関わる教員の参画意識

それにより

### 導入の必要性から「ねらい」へ

- 学校と地域の一体感（「どのような学校・生徒へ」の共有）へ
- 学校運営に地域住民の意見を反映させる
- 諸会議・学校行事を精査・改善し内容を見直す
- マチにおける諸行事への高校生の積極的参画から町からの信頼・期待感へ
- 学校経営についての教員の意識変化へ

### それにより

- ・学校の進むべき方向性と地域が求める学校（高校）像の一致が近づく、もしくは「同じ目標に向かっていく」ことが大切ではないか。
- ・学校運営協議会（コミュニティ・スクール）制度の導入が、やがて「地域に信頼され、魅力ある学校づくり」につながるのではないか。

教員の負担感は？

委員は  
誰に？

メリットは？  
デメリットの方が！

予算は  
どうするの？

会議！  
会議！  
会議？

学校評議員会と何が違うの？

地域住民を講師にして  
体験授業させるだけ？

この忙しいのに  
さらに？

校長のリーダーシップで、ビジョンを描き、その必要性を関係者に説く

### ☆ 今後の具体的方向性について

- ・会議は年3回、分掌部長（教員）3名も委員、校長は1委員としての立場（自由な意見交換の徹底）
- ・3部会（学習、生活、進路）を設定し、担当を設け、活動内容（学校行事等）の意見聴取も行う。
- ・今年度、意見交換した内容について、来年度の学校経営方針に反映
- ・委員を充て職にしない。様々な役職、職種の方々、町内・外出身者等で編成することに気を回す。（本協議会に参加する委員全員が、研修の場と捉え、意見する内容の質を少しずつ上げていきたい。）
- ・委員である教員が自由に意見を述べる状況をつくる。
- ・委員のそれぞれの役割を活用（医師、保健師、福祉関係者、介護士、漁業関係者、教育委員会職員等）（生徒の就職や進学に関する面談や模擬面接などのサポートについても依頼）

そして

### 将来的には、

- 小・中学校の学校運営協議会（コミュニティ・スクール）、PTA連合会などにつなげたい。
- 小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業（H27～29）と関連づけ、寿都町小中高連携推進委員会・町全体のキャリア教育の充実、発展につなげたい。
- 寿都町小中高生による英語ふるさとアンテナショップ（高校生を中心として、小中生とふるさとを愛し学習し、地元特産品を英語で接客販売）と関連づけたい。